

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
1	教育理念・学修目標	教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画を明確に設定しているか。		教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画を明確に設定しており、定期的な検証・改善が行われている。	教員養成の目標又は当該目標を達成するための計画に未設定のものがあるが、改善に向けた検討が行われている。	教員養成の目標又は当該目標を達成するための計画に未設定のものがある。
				-	A	本学では、教員の養成の目標を「地域に根ざし、豊かな人間力と実践力を有する「学び続ける教員」の養成」と明確に設定し、それを達成するための計画についても、①教育実習の充実、教育ボランティア等を通して「実践と理論の往還」を進める②グローバル化に対応し、ICTの授業開発やコミュニケーション教育を進める③インクルーシブ社会を実現するための教育を進める④FD活動などPDCAサイクルを通して、教員養成カリキュラムを不断に改善する、と定めている。これらについては、その実行とそこから明らかとなった課題の改善に漸次務めている。		
				自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
			教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び当該目標を達成するための計画を明確に設定しているか。またその計画が3つの方針との関係性の検証が図られているか。		教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び当該目標を達成するための計画を明確に設定している。またその計画が3つの方針との関係性を必要に応じて意識しており、定期的な検証・改善が行われている。	教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標又は当該目標を達成するための計画に未設定のものがあるが、改善に向けた検討が行われている。	教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標又は当該目標を達成するための計画に未設定のものがある。	
			人文社会科学部	A	様式8号ア(2)において「文理連携の教育を通じて、創造性と総合的思考力を備えつつ、多彩な資質を持った地域創生人材を育成することを使命」とする旨記載されており、教員養成の目標が明確になっている。養成計画も、以下の点で3つの方針と整合している。 ・実践性：情報・統計・社会調査等の科学的メソッドを身に付けること、人社会の高度な専門性を備えることが示されている。 ・総合性、地域性：文理連携教育、地域課題を総合的にとらえ、創造的な解決に導く人材育成を目指す。創造性と総合的思考力を備えた地域創生人材を育成する。この2点が示されている。			
			社会文化創造研究科	A	様式第7号アより、大学院社会文化創造研究科が養成する教員には、地域の課題を抱える東北地方において次代を担う児童・生徒を教育する役割を期待している。教員養成の理念として、深化した個々の専門的知識と技能、他分野と連携しながらカリキュラムと授業を構想し、教材開発から学習評価までを着実に確かな「授業力」、多様性を尊重する態度と互いの良さを生かすことができる豊かな「人間力」、人文・社会科学と芸術・スポーツ科学の専門的視野から持続可能な社会づくりを目指す「社会力」、新たな価値を創造し地域に展開した教育実践ができる「実践力」を備えた教員を要請することを目標としている。以上のように、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画を明確に設定し、その計画と3つの方針との関係性を意識した教育課程編成等を行っている。			

令和4年度教職課程自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠
				地域教育文化学部	A	様式8号アより地域教育文化学部では、地域社会の要請に基づく「実践性」「総合性」「地域性」を持つ教員の養成を目標とし、児童教育コースでは「地域に根ざしたチーム学校の一員としての教員」、文化創生コースでは「地域の豊かな芸術生活構築あるいは地域の健康支援のために地域の団体と連携・協働を担える教員」を養成することを目指している。APでは広い視野と探究心、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持って地域の課題に取り組み、地域社会の自律的な発展に寄与する意欲を持った学生を受け入れる、としている。CPでは「実践性」に関して知識習得中心の科目群と実践的技術習得中心の科目群を相互補完的に履修させ、知の実践力の育成を促している。「総合性」に関しては、人間性および社会性の涵養促進のため、協働による参加型・対話型授業を初年次から展開している。「地域性」に関しては、中心科目に地域貢献、地域創生を実践するための基本となる科目群と地域課題解決の実践演習群の「フィールドプロジェクト」を置き、PBL型授業を学年進行に伴って拡充している。DPでも「幅広い教養と汎用的技能」「豊かな人間性と社会性」「専門分野の知識と技能」における「地域の教育を支える知識や技能」あるいは「地域文化創生に必要な専門的知識」の修得と課題解決といった知識・態度・能力を獲得した学生に学位を授与するとしている。以上のように教員養成の目標及び達成計画は明確で3つの方針と整合性がある。また、目標達成のためのカリキュラムについても2021年度に確認と見直しの検討を行っている。	課程認定書類様式8号ア AP・CP・DP
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	「教員の高度な専門性の育成」という理念・目的が、山形大学大学院規則第1条に明確に定められている。それを達成するための教育目標と3つのポリシーは一貫性と整合性をもって定められ、学生便覧等で学生に把握されている。	【学生便覧】①山形大学大学院規則第1条 (pp.21-22)。 ②教育実践研究科の概要、1. 教育目標、2. デプロマポリシー、3. 本研究科の特色、4. カリキュラムポリシー (pp.1-2)。
				理学部	A	様式8号アより理学部では、教員養成の理念として、カリキュラムと授業の構想、教材開発から学習評価までを着実に実行する確かな「授業力」、多様な他者との対話ができる豊かな「人間力」と急速な社会の変化に対応できる「社会力」、地域に根差した教育実践ができる「実践力」を備えた教員を養成することを目指している。こうした理念を実現するために、全学的な教員養成システムとして、市町村教育委員会および公立学校と連携した教育実習運営協議会を設置し、学内組織である地域教育文化学部附属教職研究総合センターを中心にして、教職科目のカリキュラム編成、学生に対する教員免許に関する履修指導、教育実習の事前指導、現職教員に対する指導、教員免許状更新講習の全体計画の立案等を行っている。	課程認定書類様式8号ア
				理工学研究科 (理学系)	A	様式8号アより理学部では、教員養成の理念として、カリキュラムと授業の構想、教材開発から学習評価までを着実に実行する確かな「授業力」、多様な他者との対話ができる豊かな「人間力」と急速な社会の変化に対応できる「社会力」、地域に根差した教育実践ができる「実践力」を備えた教員を養成することを目指している。こうした理念を実現するために、全学的な教員養成システムとして、市町村教育委員会および公立学校と連携した教育実習運営協議会を設置し、学内組織である地域教育文化学部附属教職研究総合センターを中心にして、教職科目のカリキュラム編成、学生に対する教員免許に関する履修指導、教育実習の事前指導、現職教員に対する指導、教員免許状更新講習の全体計画の立案等を行っている。	課程認定書類様式8号ア
				工学部	A	工学部の各学科は、ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラムポリシー(CP)に則った教員養成を行なっている。これによって、専門分野の知識を基盤として独創性と創造性に富んだ思考および行動ができる教員を養成をするという目標が達成できる。達成するための計画はシラバスチェックを中心に進められている。DPとCPと講義の対応がシラバスチェックで確認され必要に応じて修正されている。	学生便覧 カリキュラムチェックシート
				理工学研究科 (工学系)	A	理工学研究科の各専攻は、ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラムポリシー(CP)に則った教員養成を行なっている。これによって、専門分野の知識を基盤として独創性と創造性に富んだ思考および行動ができる教員を養成をするという目標が達成できる。達成するための計画はシラバスチェックを中心に進められている。DPとCPと講義の対応がシラバスチェックで確認され必要に応じて修正されている。	学生便覧 カリキュラムチェックシート

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
2		教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容について、考慮されているか。（山形県教育委員会のホームページを参照のこと）		山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容を考慮しており、定期的な検証・改善が行われている。	山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容を考慮していないが、改善に向けた検討が行われている。	山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容を考慮していない。
			-	A	本学の教員の養成の目標は、山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容と十分に符合するものとなっており、今後もその取組の中で改善に向けた取組を行っている。			
			自己点検・評価の観点		評価基準			
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
		山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容について、考慮されているか。（山形県教育委員会のホームページを参照のこと）		山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容を考慮しており、定期的な検証・改善が行われている。	山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容を考慮していないが、改善に向けた検討が行われている。	山形県教育委員会が策定した「山形県教員『指標』」の内容を考慮していない。		
		人文社会科学部	A	様式8号ア(2)において、地域創生人材の育成、地域社会の将来を教育面から支える担い手、グローバルな視点から地域の課題を総合的に捉える、などを明記している。山形県の教員「指標」の「採用時に求める教員の姿」「着任時の姿」を踏まえた教員養成の目標が設定されている。			山形県教員指標 課程認定資料第8号ア	
		社会文化創造研究科	A	教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画は、山形県が策定した「山形県教員『指標』」に考慮した上で策定している。			課程認定申請資料（参考資料1）、教員養成の目標・計画と山形県教員『指標』の関連性検証シート（参考資料4）	
		地域教育文化学部	A	山形県教員「指標」の「採用時に求める教員の姿」および「着任時の姿」を踏まえて教員養成の目標を設定している。			山形県教員「指標」 課程認定書類様式8号ア	
		教育実践研究科（教職大学院）	B	「山形県教員『指標』」のキャリア・ステージに留意して、各授業科目に「学部新卒学生」と「現職教員学生」に分けた到達目標を設定しているが、教育課程と「指標」の内容との明確な対応関係は記述されていない。			【学生便覧】Ⅲカリキュラム (pp.5-11)。	
		理学部	A	山形県教員「指標」の「採用時に求める教員の姿」および「着任時の姿」を踏まえて教員養成の目標を設定している。			山形県教員「指標」 課程認定書類様式8号ア	
理工学研究科（理学系）	A	山形県教員「指標」の「採用時に求める教員の姿」および「着任時の姿」を踏まえて教員養成の目標を設定している。			山形県教員「指標」 課程認定書類様式8号ア			

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠
				工学部	A	「山形県教員『指標』」の「採用時に求める教員の姿」および「着任時の姿」に策定されている、使命感、責任感、倫理観、専門性、郷土愛は、DP（豊かな人間性と社会性、幅広い教養と汎用的技能、専門分野の知識と技能）で保証されている。	学生便覧 カリキュラムチェックシート
				理工学研究科（工学系）	A	「山形県教員『指標』」の「採用時に求める教員の姿」および「着任時の姿」に策定されている、使命感、責任感、倫理観、専門性、郷土愛は、DP（豊かな人間性と社会性、幅広い教養と汎用的技能、専門分野の知識と技能）で保証されている。	学生便覧 カリキュラムチェックシート
3		教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準	
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				学校や子どもたちを取り巻く教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、教員養成の目標や計画について、定期的な見直しが行われているか。	教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、定期的な検証・改善が行われている。	教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、教員養成の目標や計画を設定していないが、改善に向けた検討が行われている。	教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、教員養成の目標や計画を設定していない。
				-	A	学校や子どもたちを取り巻く教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況に対する情報を適宜収集し、それらを踏まえて、定期的な検証・改善を行っている。	
			学科等	自己点検・評価の観点		評価基準	
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				学校や子どもたちを取り巻く教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、教員養成の目標や計画について、定期的な見直しが行われているか。	教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標や計画を設定して、定期的な検証・改善が行われている。	教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標や計画を設定していないが、改善に向けた検討が行われている。	教育環境の変化、社会情勢など、さまざまな状況を踏まえて、教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標や計画を設定していない。
				人文社会科学部	B	新型コロナウイルス感染症拡大に対応したオンライン講義の実施体制の充実、教室の機材の整備など、社会状況の変化への対応を講じており、SDGsへの対応も図られているが、定期的な見直しの機会は設けられていないため、この点の改善に向けた検討を行う。	大学のオンライン授業の指針（総合対策本部から出ているもの） シラバスのSDGs対応表
				社会文化創造研究科	A	新型コロナウイルス感染症や時代の変化に対応するためのICT活用など、個々の専門分野の特性を踏まえながら教育現場の変化や社会情勢を捉え、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画について、定期的な見直しを図っている。	課程認定申請資料（参考資料1）
				地域教育文化学部	A	これまで東日本大震災による危機管理意識の高まりを受けて防災教育を充実させており、近年は新型コロナウイルス感染症によるオンライン教育への対応などICT機器を用いた教育の充実およびSDGsへの対応を図っている。	中央教育審議会答申 課程認定書類様式8号ア
				教育実践研究科（教職大学院）	A	山形県教育委員会及び市町村教育委員会の代表が加わる運営協議会（教育課程連携協議会を兼ねる）を年1回以上開催し、地域の学校及び関係者や学生のニーズにそった教育課程の見直しを定期的に行っている。	【大学院教育実践研究科運営協議会議事録】 (事務担当所蔵)。 【研究会委員会への運営協議会の報告資料】 (事務担当所蔵)。

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				理学部	A	これまで東日本大震災による危機管理意識の高まりを受けて防災教育を充実させており、近年は新型コロナウイルス感染症によるオンライン教育への対応などICT機器を用いた教育の充実およびSDG sへの対応を図っている。	中央教育審議会答申等 課程認定書類様式8号ア等	
				理工学研究科（理学系）	A	これまで東日本大震災による危機管理意識の高まりを受けて防災教育を充実させており、近年は新型コロナウイルス感染症によるオンライン教育への対応などICT機器を用いた教育の充実およびSDG sへの対応を図っている。	中央教育審議会答申等 課程認定書類様式8号ア等	
				工学部	A	近年では新型コロナウイルス感染症によるオンライン教育への対応などICT機器を用いた教育の充実や、SDG sを考慮に入れた教育を行っており、環境の変化への対応を図っている。また、シラバスチェックリストにはSDGsに関するチェック項目も入れられている。	シラバス シラバスチェックリスト	
				理工学研究科（工学系）	A	近年では新型コロナウイルス感染症によるオンライン教育への対応などICT機器を用いた教育の充実や、SDG sを考慮に入れた教育を行っており、環境の変化への対応を図っている。また、シラバスチェックリストにはSDGsに関するチェック項目も入れられている。	シラバス シラバスチェックリスト	
4	授業科目・教育課程の編成実施	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				複数の学部で教職科目の授業を共通で開設する場合、教育課程の編成は適切に行われているか。	複数の学部で教職科目の授業を共通で開設する場合、教育課程の編成が適切に行われており、定期的な検証・改善が行われている。	複数の学部で教職科目の授業を共通で開設する場合、教育課程の編成に一部改善すべきところがあるが、改善に向けた検討が行われている。	複数の学部で教職科目の授業を共通で開設する場合、教育課程の編成が適切に行われていない。	
-	B	複数の学部で教職科目の授業を共通で開設しており、学部等の特色や教育効果、受講希望者等を踏まえ、カリキュラムの編成を行っており、その改善に向けた検討が漸次行われている。						
5	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準			
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
			ICT教育を実践するための環境、模擬授業を行うための教室、教職に関する図書、教材・教具など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか。	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されており、定期的な検証・改善が行われている。	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されていないが、改善に向けた検討が行われている。	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されていない。		
-	B	小白川キャンパスにおいては、ICT教育を実践するための教室の整備を進めている。また、小白川キャンパスの学生センターにおいては、教職に関する図書や過去問等を整備しており、学生が利用できる環境となっている。このほか、図書館における関連書籍も含め、これらの改善に向けた検討を行っているところである。						

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
6		教育課程の体系性	学科等	自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				教員養成の目標を達成するために必要な授業科目が適切に開講されているか。教職科目と、教職科目以外の科目とのつながり（教育実践研究科は教育理念と教育実践の往還）は適切か。	教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標を達成するために必要な授業科目が適切に開講されており、教職科目と、教職科目以外の科目とのつながりが適切であり（教育実践研究科は、教育理念と教育実践の往還がなされているか）、定期的な検証・改善が行われている。	教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標を達成するために必要な授業科目が適切に開講されていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標を達成するために必要な授業科目が適切に開講されていない。	
				人文社会科学部	A	様式2号と8号ア・ウの整合性および学生便覧の授業科目一覧表を確認し、目標達成に必要な科目が適切に開講されており、教職科目とそれ以外の科目とのつながりについても適切に設定されている。また、シラバチェックや便覧の見直しを通じて、定期的な検証・改善が行われている。	様式2号と8号ア・ウ	学生便覧 シラバス
				社会文化創造研究科	A	様式第2号と第8号の整合性及び履修規程の授業科目一覧表を確認し、各コース（社会文化システムおよび芸術・スポーツ科学）の特性を踏まえて、教員養成の目標を達成するために必要な授業科目を適切に配置・開講している。	課程認定申請資料（参考資料1）、社会文化創造研究科履修規程（参考資料5）	
				地域教育文化学部	A	様式2号と8号ア・ウの整合性および学生便覧の授業科目一覧表を確認し、目標達成に必要な科目が適切に開講されており、教職科目とそれ以外の科目とのつながりについても適切に設定されていることについて確認を行っている。	課程認定書類様式2号・8号アウ、各コースカリキュラム（シラバス）	
				教育実践研究科（教職大学院）	A	教育課程は、「共通科目」「学校における実習科目」「分野別選択科目」で編成され、理論と実践の往還・融合による教員養成を目指した体系的なものとなっている。	【学生便覧】①Ⅱ履修方法、1. 履修基準（pp.3）。②山形大学大学院教育実践研究科履修規程第3条（別表第1）（pp.18-19）。③Ⅲカリキュラム、1. 到達目標と授業科目（pp.6-7）。	
				理学部	A	様式2号と8号ア・ウの整合性および学生便覧の授業科目一覧表を確認し、目標達成に必要な科目が適切に開講されており、教職科目とそれ以外の科目とのつながりについても適切に設定されていることについて確認を行っている。	課程認定書類様式2号・8号アウ、カリキュラム（シラバス）	
理工学研究科（理学系）	A	様式2号と8号ア・ウの整合性および学生便覧の授業科目一覧表を確認し、目標達成に必要な科目が適切に開講されており、教職科目とそれ以外の科目とのつながりについても適切に設定されていることについて確認を行っている。	課程認定書類様式2号・8号アウ、カリキュラム（シラバス）					
工学部	A	専門分野の知識を基盤として独創性と創造性に富んだ思考および行動ができる教員を養成をするという目標を達成するための授業科目を開設しており、実際の学生便覧とも整合性が取れている。また、工学部においては教職科目の多くを専門科目で読み替えており、教職科目と専門科目の繋がりは適切である。	学生便覧 カリキュラムチェックシート 教職科目が検証・改善されていることは、学生便覧H28(p.103)、H29(p.123)の比較から分かる。					

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				理工学研究科（工学系）	A	専門分野の知識を基盤として独創性と創造性に富んだ思考および行動ができる教員を養成をするという目標を達成するための授業科目を開設しており、実際の学生便覧とも整合性が取れている。また、理工学研究科においては教職科目の多くを専門科目で読み替えており、教職科目と専門科目の繋がりは適切である。	学生便覧 カリキュラムチェックシート	
7		ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	学科等	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				各学部において、例えば、学校教育に必要なICTの活用についてなど、各科目を横断して扱わなければならない内容の確認など、教育課程を整備できているか。		学校教育に必要なICTの活用についてなど、各科目を横断して扱わなければならない内容の確認など、教育課程が整備できている。定期的な検証・改善が行われている。	学校教育に必要なICTの活用についてなど、各科目を横断して扱わなければならない内容の確認を行っていないが、改善に向けた検討が行われている。	学校教育に必要なICTの活用についてなど、各科目を横断して扱わなければならない内容の確認を行っていない。
				人文社会科学部	B	ICT活用指導力の向上のため、シラバスの確認および授業担当教員に授業でのICT機器の活用状況の確認を行った。今後、4年間の学修を通じたICT活用指導力向上に向けて不足する知識、技能の補充等について検討していく。	シラバス（教職実践演習（中・高）のもの）	
				社会文化創造研究科	B	各校種専修免許状の取得・養成を担う本大学院研究科では、ICT活用などの直接的な横断科目の整備はないが、配置された各専門科目の中で必要に応じてICT活用に触れ、一種免許状取得教育課程のフォローアップが実践されている。	なし	
				地域教育文化学部	B	ICT活用指導力の向上のため、シラバスの確認および主な授業担当教員に授業でのICT機器の活用状況の確認を行った。今後、4年間の学修を通じた学生のICT活用指導力向上に向けて必要とされる知識、技能を検討し、ICT活用指導力向上にむけた教育課程整備の検討を進める。	各コースカリキュラム シラバス（現在） 授業担当教員へのアンケート結果	
				教育実践研究科（教職大学院）	B	教科横断的に活用できる学習支援ソフトを授業で活用している。また、教職専門実習などでは学生も積極的に活用している。	【FD研修会】令和4年5月実施（資料は事務担当所蔵）。	
				理学部	B	ICT活用指導力の向上のため、シラバスの確認および主な授業担当教員に授業でのICT機器の活用状況の確認を行った。今後、4年間を通じたICT活用指導力向上に向けて不足する知識、技能の補充等について関係する教員に周知し、改善を求めていく。	カリキュラム シラバス（現在）	
				理工学研究科（理学系）	B	ICT活用指導力の向上のため、シラバスの確認および主な授業担当教員に授業でのICT機器の活用状況の確認を行った。今後、4年間を通じたICT活用指導力向上に向けて不足する知識、技能の補充等について関係する教員に周知し、改善を求めていく。	カリキュラム シラバス（現在）	
工学部	A	工学部においては実験・実習・卒業研究などにおける情報機器の活用場面が多く、各授業を横断してICT活用の教育がされている。また、新型コロナウイルス感染症対応に伴いオンライン授業が浸透したことで、WebClassを中心としたICT活用の機会が増加している。	シラバス WebClassのコース一覧					
理工学研究科（工学系）	A	理工学研究科においては実験・実習・研究などにおける情報機器の活用場面が多く、各授業を横断してICT活用の教育がされている。また、新型コロナウイルス感染症対応に伴いオンライン授業が浸透したことで、WebClassを中心としたICT活用の機会が増加している。	シラバス WebClassのコース一覧					

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠				
8		いわゆるキャップ制の設定状況	学科等	自己点検・評価の観点		評価基準					
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)			
				キャップ制が設定されているか。(キャップ制の単位数を含む)		キャップ制が設定されており、定期的な検証・改善が行われている。		キャップ制が設定されていないが、改善に向けた検討が行われている。		キャップ制が設定されていない。	
				人文社会科学部	A	キャップ制を設定しており、2022年度のカリキュラム改訂検討の際にキャップ制の範囲内での履修可能な選択科目の単位数が適正かどうか検討を行った。			学生便覧		
				社会文化創造研究科	非該当						
				地域教育文化学部	A	キャップ制を設定しており、カリキュラム改訂の際にキャップ制の範囲内での履修可能な選択科目の単位数が適正かどうか検討を行っている。			学生便覧 (CAP制の規定)		
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	学修時間を確保するため、キャップ制を設定している。(上限単位20単位、年間40単位)			【学生便覧】II 履修方法、1. 履修基準 (pp.3)。		
				理学部	A	キャップ制を設定している。教職課程はキャップの対象外だが、教職課程を履修しても適切な学修時間が取れるように単位数を設定しており、2022年度のカリキュラム改訂の際にも検証を行った。			学生便覧 (CAP制の規定)		
				理工学研究科 (理学系)	非該当						
				工学部	A	学修時間を確保するため、キャップ制を設定している。			学生便覧		
理工学研究科 (工学系)	非該当										

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
9		教育課程の充実・見直しの状況	学科等	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				教育課程の充実・見直しのための機会（協議機会など）を設けているか。		教育課程の充実・見直しのための機会（協議機会など）を設けており、定期的な検証・改善が行われている。	教育課程の充実・見直しのための機会（協議機会など）を設けていないが、改善に向けた検討が行われている。	教育課程の充実・見直しのための機会（協議機会など）を設けていない。
				人文社会科学部	A	教職課程自己点検・評価の過程で学部教育委員会で審議し、教育課程の充実・見直しのための検討を行っている。また、教職副専攻プログラム運営会議においても教育課程の充実・見直しのための検討を行っている。	学部教育委員会資料 教職副専攻プログラム運営会議資料	
				社会文化創造研究科	A	大学院に設けた学務委員会主導において、カリキュラム・チェックリストの作成や履修規程変更確認などを通じて、随時見直しを行っている。	2023年度社会文化創造研究科カリキュラム・チェックリスト（参考資料7）	
				地域教育文化学部	A	教職課程自己点検・評価の過程で学務委員会で審議し、教育課程の充実・見直しのための検討を行っている。また、自己点検・評価の結果を教授会で審議する際に、全教員から充実・見直しに関わる意見を求め、出された意見について学務委員会で検討している。	学務委員会・免許管理部会の自己点検・評価に関する議事録	
				教育実践研究科（教職大学院）	A	研究科内に学務担当の業務部会及び総務企画委員会を設け、常時点検と見直しを行っている。また、毎年、大学院教育実践研究科運営協議会（教職課程連携協議会を兼ねる）を開催し、教育課程について検証を行っている。	【教育実践研究科委員会資料】業務分担、総務企画委員会規則（資料は事務担当所蔵）。	
				理学部	A	学外のステークホルダーが参画する有識者懇談会を実施し、教育課程の充実・見直しに向けた検討を行っている。また、教職課程自己点検・評価の結果をカリキュラム・授業改善委員会および教授会において審議し、教授会では全教員から充実・見直しに向けた意見を求め、出された意見についてカリキュラム・授業改善委員会や教務委員会で検討を行っている。	カリキュラム・授業改善委員会等の自己点検・評価に関する議事録	
				理工学研究科（理学系）	A	学外のステークホルダーが参画する有識者懇談会を実施し、教育課程の充実・見直しに向けた検討を行っている。また、教職課程自己点検・評価の結果をカリキュラム・授業改善委員会および教授会において審議し、教授会では全教員から充実・見直しに向けた意見を求め、出された意見についてカリキュラム・授業改善委員会や教務委員会で検討を行っている。	カリキュラム・授業改善委員会等の自己点検・評価に関する議事録	
		工学部	A	教職課程自己点検・評価の過程で学務委員会で審議し、教育課程の充実・見直しのための検討を行っている。	学務委員会の会議次第			
		理工学研究科（工学系）	A	教職課程自己点検・評価の過程で教務委員会で審議し、教育課程の充実・見直しのための検討を行っている。	教務委員会の会議次第			

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
10		個々の授業科目の到達目標の設定状況	授業科目	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画が設定されているか。 教職課程コアカリキュラム（教育実践研究科を除く）への対応が図られているか。		教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画が設定され、教職課程コアカリキュラム（教育実践研究科を除く）への対応が図られており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画が設定、教職課程コアカリキュラム（教育実践研究科を除く）への対応が図られていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画が設定、教職課程コアカリキュラム（教育実践研究科を除く）への対応が図られていない。
				人文社会科学部	B	教員の養成の目標及び計画が設定されており、教職課程コアカリキュラムへの対応も図られているが、担当教員の変更等のためシラバスの内容が変わっているものも一部生じており、定期的な検証・改善が可能となるような体制の構築を検討する。	様式第8号ア・ウ 英語コアカリキュラム対応表 シラバス（認定時・現在、英語のみ再認定時のものも）	
				社会文化創造研究科	B	教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画を明確に設定している。また、各校種専修免許状の取得・養成を担う本大学院研究科の教育課程では、教職課程コアカリキュラムに定める科目群の開設は求められていない。	課程認定申請資料（参考資料1）、社会文化創造研究科履修規程（参考資料5）	
				地域教育文化学部	A	シラバスチェック時に様式8号ア・ウ、学習指導要領、教職課程コアカリキュラム（該当科目のみ）と各授業科目の到達目標との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在） コアカリキュラム対応表	
				教育実践研究科（教職大学院）	A	全ての授業において、シラバスに「授業の到達目標」を明記しており、これに基づいて授業が計画・実践されている。	【シラバス】3月に提出、（ホームページに掲示）。 【授業報告書】8月と3月に提出（報告書は事務担当所蔵）。	
				理学部	A	シラバスチェック時に様式8号ア・ウ、学習指導要領、教職課程コアカリキュラム（該当科目のみ）と各授業科目の到達目標との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在） コアカリキュラム対応表	
				理工学研究科（理学系）	A	シラバスチェック時に様式8号ア・ウ、学習指導要領、教職課程コアカリキュラム（該当科目のみ）と各授業科目の到達目標との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在） コアカリキュラム対応表	
工学部	A	工学部の各学科は、ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラムポリシー(CP)に則った教員養成を行っており、DPとCPと各授業科目の到達目標との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	学生便覧（DP、CP）、 シラバス（現在）					
理工学研究科（工学系）	A	理工学研究科の各専攻は、ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラムポリシー(CP)に則った教員養成を行っており、DPとCPと各授業科目の到達目標との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	学生便覧（DP、CP）、 シラバス（現在）					

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
11		シラバスの作成状況	授業科目	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画と当該授業科目の関係等に関する確認が行われているか。		教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画と当該授業科目の関係等に関する確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画と当該授業科目の関係等に関する確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標及び計画と当該授業科目の関係等に関する確認が行われていない。
				人文社会科学部	B	設定された教員養成の目標を実現していくための到達目標（様式第8号ウ）は、導入・基礎・展開・完成と、学年ごとに展開させていく学部のカリキュラム構成に沿うものである。教職課程コアカリキュラムが適用される英語については、確認体制の構築を含め、定期的な検証・改善が可能となるような体制の構築を検討する。	様式第8号ア・ウ 英語コアカリキュラム対応表 シラバス（認定時・現在、英語のみ再認定時のもの）	
				社会文化創造研究科	B	次年度開講科目のシラバス作成を行う際、各授業科目において、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画との関係性の確認を行う機会を今後設ける予定である。	なし	
				地域教育文化学部	A	シラバスチェック時に様式8号ア・ウ、学習指導要領、教職課程コアカリキュラム（該当科目のみ）と各授業科目のシラバス記載事項との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。また、これに加えて、統括教育ディレクターが確認する仕組みを取り入れている。	課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在） コアカリキュラム対応表	
				教育実践研究科 （教職大学院）	A	毎年度、授業担当教員に対してシラバス記載内容について確認を依頼しており、必要に応じて変更・修正を行っている。また、これに加えて、統括教育ディレクターが確認する仕組みを取り入れている。	【シラバス原稿作成依頼書】（事務担当所蔵）。 【地教スケジュール表】（事務担当所蔵）。	
				理学部	A	シラバスチェック時に様式8号ア・ウ、学習指導要領、教職課程コアカリキュラム（該当科目のみ）と各授業科目のシラバス記載事項との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在） コアカリキュラム対応表	
理工学研究科（理学系）	A	シラバスチェック時に様式8号ア・ウ、学習指導要領、教職課程コアカリキュラム（該当科目のみ）と各授業科目のシラバス記載事項との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在） コアカリキュラム対応表					
工学部	A	工学部の各学科は、ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラムポリシー(CP)に則った教員養成を行っており、DPとCPと各授業科目の到達目標との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	学生便覧（DP、CP）、 シラバス（現在）					

令和4年度教職課程自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				理工学研究科（工学系）	A	理工学研究科の各専攻は、ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラムポリシー(CP)に則った教員養成を行っており、DPとCPと各授業科目の到達目標との整合性の確認をし、必要に応じて改善を行っている。	学生便覧（DP、CP）、シラバス（現在）	
12		アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	授業科目	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				当該授業科目における多様な学びのための工夫が行われているか。		当該授業科目における多様な学びのための工夫が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	当該授業科目における多様な学びのための工夫が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	当該授業科目における多様な学びのための工夫が行われていない。
				人文社会科学部	B	PBL科目も必修としており、シラバスチェック時にはアクティブラーニングやICT活用状況、その他工夫について確認をしているが、定期的な検証・改善が可能となるような体制の構築を検討する。	PBL科目一覧 シラバス（現在） シラバスチェックをおこなっていることを示すもの	
				社会文化創造研究科	A	各授業の特性および授業履修者や、シラバスに記載されている授業科目の到達目標に応じた適切な割合で、アクティブ・ラーニングやICT活用の導入について、必要に応じて改善を行っている。	シラバス（現在）	
				地域教育文化学部	A	シラバスチェック時にアクティブラーニングやICT活用状況、その他の工夫について確認をし、必要に応じて改善を行っている。また、アクティブラーニングやICT活用状況、その他の工夫については自己点検・評価結果の教授会審議の際に全教員に紹介することで好事例の拡大につなげている。	シラバス（現在） 授業担当教員へのアンケート結果	
				教育実践研究科（教職大学院）	A	アクティブラーニングを意識した教育支援システム（ロイロノート）活用研修を実践研究科教員対象に行った。	【FD研修会】令和4年7月実施（資料は事務担当所蔵）。	
				理学部	A	シラバスチェック時にアクティブラーニングやICTの活用状況、その他の工夫について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス（現在） 工夫している事項の回答	
理工学研究科（理学系）	A	シラバスチェック時にアクティブラーニングやICTの活用状況、その他の工夫について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス（現在） 工夫している事項の回答					

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠														
				工学部	A	工学部においては実験・実習・卒業研究などにおける情報機器の活用場面が多く、各授業を横断してICT活用の教育がされている。また、シラバスチェック時にアクティブラーニングやICT活用状況、その他の工夫について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス（現在） シラバスチェックリスト														
				理工学研究科（工学系）	A	理工学研究科においては実験・実習・研究などにおける情報機器の活用場面が多く、各授業を横断してICT活用の教育がされている。また、シラバスチェック時にアクティブラーニングやICT活用状況、その他の工夫について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス（現在） シラバスチェックリスト														
13		個々の授業科目の見直しの状況	授業科目	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">自己点検・評価の観点</th> <th colspan="3">評価基準</th> </tr> <tr> <th>A (適切に実施している)</th> <th>B (概ね適切に実施している)</th> <th>C (改善すべき事項がある)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">個々の授業科目の見直しのための機会を設けているか。</td> <td>個々の授業科目の見直しのための機会を設け、定期的な検証・改善が行われている。</td> <td>個々の授業科目の見直しのための機会を設けていないが、改善に向けた検討が行われている。</td> <td>個々の授業科目の見直しのための機会を設けていない。</td> </tr> </tbody> </table>				自己点検・評価の観点		評価基準			A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	個々の授業科目の見直しのための機会を設けているか。		個々の授業科目の見直しのための機会を設け、定期的な検証・改善が行われている。	個々の授業科目の見直しのための機会を設けていないが、改善に向けた検討が行われている。	個々の授業科目の見直しのための機会を設けていない。	
自己点検・評価の観点		評価基準																			
		A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)																	
個々の授業科目の見直しのための機会を設けているか。		個々の授業科目の見直しのための機会を設け、定期的な検証・改善が行われている。	個々の授業科目の見直しのための機会を設けていないが、改善に向けた検討が行われている。	個々の授業科目の見直しのための機会を設けていない。																	
			人文社会科学部	A	シラバスチェック時にアクティブラーニングやICT活用状況、その他工夫について確認をしていると共に、授業評価のフィードバックによって個々の授業科目の見直しを促進している。	シラバス（現在） シラバスチェックをおこなっていることを示すもの															
			社会文化創造研究科	A	次年度開講科目のカリキュラム・チェックリストやシラバス作成を行う際、各授業科目において到達目標などの授業内容構成に関する確認を行う機会を随時設けている。また、前期終了時に、院生たちに向けてWeb入力による記載形式のアンケートを行っており、この中で研究環境や授業・カリキュラム全般のことについて意見を聞いている。その結果に基づき、見直しや改善を行っている。	2023年度社会文化創造研究科カリキュラム・チェックリスト（参考資料7）															
			地域教育文化学部	A	シラバスチェック時にアクティブラーニングやICT活用状況、その他の工夫について確認をし、自己点検・評価結果の教授会審議の際に全教員に紹介することで個々の授業科目の見直しを促進している。また、各学期の終わりに授業改善アンケートを実施し、その結果に基づいて授業内容や授業方法などの見直しや改善を行っている。	シラバス（現在）授業担当教員へのアンケート結果															
			教育実践研究科（教職大学院）	A	研究科内に学務担当の業務部会及び総務企画委員会を設け、授業科目の常時点検と見直しを行っている。また、毎年、大学院教育実践研究科運営協議会（教職課程連絡協議会を兼ねる）を開催し、授業科目について検証を行っている。さらに、教員が主体となって授業改善アンケートを実施しており、アンケート結果は、毎年4月の実践研究科委員会にて諮っている。その結果に基づき、授業内容などの見直しや改善を行っている。	【教育実践研究科委員会資料】業務分担（資料は事務担当所蔵）。 総務企画委員会規則（資料は事務担当所蔵）。															
			理学部	A	各学期に授業改善アンケートを実施し、結果に基づいて授業内容等の見直しや改善を行っている。また、シラバスチェック時にアクティブラーニングやICTの活用状況、その他の工夫について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス（現在）見直し状況の回答 授業改善アンケート実施状況															
			理工学研究科（理学系）	A	各学期に授業改善アンケートを実施し、結果に基づいて授業内容等の見直しや改善を行っている。また、シラバスチェック時にアクティブラーニングやICTの活用状況、その他の工夫について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス（現在）見直し状況の回答 授業改善アンケート実施状況															

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				工学部	A	各学期の終わりに授業改善アンケートを実施し、その結果に基づいて授業内容や授業方法などの見直しや改善を行っている。また、シラバス作成時に授業担当教員がチェック項目に基づき内容のセルフチェックを行い、必要に応じて改善を行っている。	授業改善アンケート シラバスセルフチェック結果	
				理工学研究科（工学系）	A	各学期の終わりに授業改善アンケートを実施し、その結果に基づいて授業内容や授業方法などの見直しや改善を行っている。また、シラバス作成時に授業担当教員がチェック項目に基づき内容のセルフチェックを行い、必要に応じて改善を行っている。	授業改善アンケート シラバスセルフチェック結果	
14		教職実践演習及び教育実習等の実施状況	授業科目	自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				教職実践演習は、学生が卒業するまでに学ぶべき内容として、有意義で効果的な内容となっているか。教育実習（学校体験活動を含む）は、事前・事後指導を含め実習校とも連携しながら大学の主体的な関与の下で適切に行われているか。 (教育実践研究科は「教職専門実習は、事前・事後指導を含め実習校とも連携しながら大学の主体的な関与の下で適切に行われているか。」)	教職実践演習は、有意義で効果的な内容となっている。教育実習（学校体験活動を含む）は、事前・事後指導を含め実習校とも連携しながら大学の主体的な関与の下で適切に行われている。また、定期的な検証・改善が行われている。 (教育実践研究科は「教職専門実習は、事前・事後指導を含め実習校とも連携しながら大学の主体的な関与の下で適切に行われている。また、定期的な検証・改善が行われている。」)	教職実践演習又は教育実習（学校体験活動を含む）において、改善すべきところがあるが、改善に向けた検討が行われている。 (教育実践研究科は「教職専門実習において、改善すべきところがあるが、改善に向けた検討が行われている。」)	教職実践演習は、有意義で効果的な内容となっていない。教育実習（学校体験活動を含む）は、事前・事後指導を含め実習校とも連携しながら大学の主体的な関与の下で適切に行われていない。 (教育実践研究科は「教職専門実習は、事前・事後指導を含め実習校とも連携しながら大学の主体的な関与の下で適切に行われていない。」)	
				教職研究総合センター	A	「教職実践演習」は、一人一人の学生が自身の課題について自覚し、その課題の改善に向けて学生が主体的に取り組むことができるような、効果的な内容となっている。また、「教育実習」は、事前・事後指導も含めて、教育委員会と実習校のご協力をいただきながら、実習校と連携し、大学が責任を持って主体的に運営・実施している。		
				人文社会科学部	A	教職実践実習は、個々の学生が自分の強みや課題に基づいた学習目標を設定し、有意義で効果的な内容となっている。また、教育実習においては、事前・事後指導を含め、実習校とも連携しながら大学の主体的な関与の下で適切に行われている。		様式第8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在） 様式5号（実習計画）
		社会文化創造研究科	非該当					
		地域教育文化学部	A	教職実践演習では個々の学生が自身の強みや課題に基づいた学習目標を設定し、学生主体のアクティブラーニングを取り入れた活動とすることで効果的な学修となるようにしている。また、授業終了時に学生にアンケートを取り、次年度の改善につなげている。教育実習については教育実習委員会において実習校との事前打合せ会、実習校訪問および事前事後指導の運営を行っている他、実習校や実習生へのアンケート結果等から実施状況を確認し、次年度に向けた改善の検討を行っている。		課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス（課程認定時・現在）実習計画は様式5号		

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	教職専門実習については、大学院教育実践研究科の主体的な運営の下、実習前(6月)と実習後(2月)に山形県教育委員会並びに実習校と運営協議会を開催し、連携を図るとともに、定期的な検証・改善が行われている。	【教育実習運営協議会資料】(資料は事務担当所蔵)。	
				理学部	A	教職実践演習では個々の学生が自身の強みや課題に基づいた学習目標を設定し、学生主体のアクティブラーニングを取り入れた活動とすることで効果的な学修となるようにしている。また、授業終了時に学生にアンケートを取り、次年度の改善につなげている。	課程認定書類様式8号ア・ウ シラバス(課程認定時・現在)実習計画は様式5号	
				理工学研究科(理学系)	非該当			
				工学部	A	教育実習については高校教員経験者に事前指導を担当いただき、実習校と連携して有意義な実習内容となっている。令和4年度は工学部の教育実習者はなしである。		
				理工学研究科(工学系)	非該当			
15	学修成果の把握・可視化	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか。		成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされており、定期的な検証・改善が行われている。	成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされていないが、改善に向けた検討が行われている。	成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされていない。
				-	A	毎年度実施されている教育プログラム(カリキュラム・チェックリスト)の検証作業を通じて、成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等に関する関係が明らかにされている。		各学部・研究科の教育プログラム(カリキュラム・チェックリスト)資料
16		成績評価に関する共通理解の構築	学科等	自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				成績評価の平準化に関する取組が図られているか。		成績評価の平準化に関する取組が図られており、定期的な検証・改善が行われている。	成績評価の平準化に関する取組が図られていないが、改善に向けた検討が行われている。	成績評価の平準化に関する取組が図られていない。
				人文社会科学部	A	人文社会科学部では同一名称の授業科目を複数の教員で分担して開講している事例は存在しないが、シラバスで成績評価基準を明示していることを確認している。	シラバス	

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠
				社会文化創造研究科	A	本大学院研究科では同一名称の授業科目を複数の教員が独立して開講している事例は存在しないが、シラバスで成績評価基準を明示していることを確認している。	シラバス（参考資料8）
				地域教育文化学部	A	地域教育文化学部では同一名称の授業科目を複数の教員で分担して開講している事例は存在しないが、シラバスで成績評価基準を明示していることを確認している。	シラバス（現在）
				教育実践研究科 （教職大学院）	A	シラバスに記載されている授業の到達目標と成績評価基準に従い、評価を行うことで平準化が図られている。また、院生全員が履修する教職専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび教職実践プレゼンテーションⅠ・Ⅱの成績判定については研究科委員会の協議事項に位置づけられており、定期的な検証・改善が行われている。	【授業シラバス】大学ホームページに掲載。 【研究科委員会資料】（資料は事務担当所蔵）。
				理学部	A	シラバスで成績評価基準を明示していることを確認している。	該当する科目の有無 該当する場合、取組状況の回答
				理工学研究科（理学系）	A	シラバスで成績評価基準を明示していることを確認している。	該当する科目の有無 該当する場合、取組状況の回答
				工学部	A	シラバスの【成績評価】項目において、評価基準と配点を明記し、成績評価の平準化を図っている。	シラバスチェックリスト
				理工学研究科（工学系）	A	シラバスの【成績評価】項目において、評価基準と配点を明記し、成績評価の平準化を図っている。	シラバスチェックリスト
17		教員の養成（教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む）の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	学科等	自己点検・評価の観点		評価基準	
					A （適切に実施している）	B （概ね適切に実施している）	C （改善すべき事項がある）
				教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報設定の確認が行われているか。 教職実践演習に向けた「履修カルテ」（教育実践研究科は教職実践プレゼンテーション（グループ発表会、中間発表会等））を適切に活用できているか。	教職実践演習に向けた「履修カルテ」（教育実践研究科は教職実践プレゼンテーション（グループ発表会、中間発表会等））を適切に活用できている。	教職実践演習に向けた「履修カルテ」（教育実践研究科は教職実践プレゼンテーション（グループ発表会、中間発表会等））を活用できていないが、改善に向けた検討が行われている。	教職実践演習に向けた「履修カルテ」（教育実践研究科は教職実践プレゼンテーション（グループ発表会、中間発表会等））を活用できていない。
				人文社会科学部	A	学務情報システムに「履修カルテ」の入力項目を設け、毎年度入力するよう指導している。4年次後期に開講している教職実践演習において適切に活用している。	学務情報システムの該当ページ 教職実践演習のシラバス
				社会文化創造研究科	非該当		

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				地域教育文化学部	B	教職実践演習では授業開始時に卒業研究指導教員が学生と履修カルテに基づいて強みと課題を確認した上で個別に学習目標を立てる形で履修カルテを活用しているが、それまでの過程で履修カルテを十分に活用できていないため、改善に向けた検討を行っている。	授業担当教員へのアンケート結果	
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	学習成果発表の場である教職実践プレゼンテーションⅠ・Ⅱの発表会に向けて、中間報告会やグループ指導の機会を活用して達成状況を確認し、さらに年度末には達成状況を自己評価するアンケートを実施し、その結果については研究科委員会の協議事項に位置づけられており、定期的な検証・改善が行われている。	【オリエンテーション資料】4月と9月に実施、(資料は事務担当所蔵)。 【研究科委員会資料】(資料は事務担当所蔵)。	
				理学部	A	教職実践演習では授業開始時に卒業研究指導教員が学生と履修カルテに基づいて強みと課題を確認した上で個別に学習目標を立てる形で履修カルテを活用している。	履修カルテの確認・活用状況の回答	
				理工学研究科(理学系)	非該当			
				工学部	—	教育職員免許法施行規則第五条第1項表備考第六号に基づき、各教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等の単位を教科に関する専門的事項の修得で持たせて代えているため、「教職実践演習」は希望者がいた場合にのみ開講している。令和4年度の「教職実践演習」履修者はなしである。		
				理工学研究科(工学系)	非該当			
18		成績評価の状況	授業科目	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				成績評価の適正な方法等の確認が行われているか。		各学部・研究科で定めている目標に従って成績評価の適正な方法等の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	各学部・研究科で定めている目標に従って成績評価の適正な方法等の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	各学部・研究科で定めている目標に従って成績評価の方法等の確認が行われていない。
				人文社会科学部	A	シラバスにおいて各授業科目の到達目標と成績評価基準をあらかじめ明確にしている。シラバスの内容については、統括教育ディレクターがシラバスチェックを行い、必要に応じて改善している。	シラバス(認定時・現在、英語のみ再認定時のもの)	
				社会文化創造研究科	A	シラバスにおいて各授業科目の到達目標と成績評価基準をあらかじめ明確にし、シラバスの内容については、統括教育ディレクター及び各コース学務委員が確認を行っている。	シラバス(参考資料8)	
				地域教育文化学部	A	シラバスチェック時に成績評価方法について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス(課程認定時・現在)	

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠																				
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	シラバスにおいて各授業科目の到達目標と成績評価基準をあらかじめ明確にし、シラバスの内容については、統括教育ディレクターが確認を行っている。また、院生全員が履修する教職専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび教職実践プレゼンテーションⅠ・Ⅱの成績判定については研究科委員会の協議事項に位置づけられており、定期的な検証・改善が行われている。	【授業シラバス】大学ホームページに記載(資料は事務担当所蔵)。 【研究科委員会資料】(資料は事務担当所蔵)。																				
				理学部	A	シラバスチェック時に成績評価方法について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス(課程認定時・現在)																				
				理工学研究科(理学系)	A	シラバスチェック時に成績評価方法について確認をし、必要に応じて改善を行っている。	シラバス(課程認定時・現在)																				
				工学部	A	シラバスにおいて各授業科目の到達目標と成績評価基準をあらかじめ明確にしている。シラバスの内容については、教育ディレクターがシラバスチェックを行い、必要に応じて改善している。	シラバス(現在) シラバスチェックリスト																				
				理工学研究科(工学系)	A	シラバスにおいて各授業科目の到達目標と成績評価基準をあらかじめ明確にしている。シラバスの内容については、教育ディレクターがシラバスチェックを行い、必要に応じて改善している。	シラバス(現在) シラバスチェックリスト																				
19	教職員組織	教員の配置の状況	大学全体	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自己点検・評価の観点</th> <th colspan="3">評価基準</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>A (適切に実施している)</th> <th>B (概ね適切に実施している)</th> <th>C (改善すべき事項がある)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われているか。</td> <td>教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。</td> <td>教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。</td> <td>教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていない。</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>A</td> <td colspan="3">各学部、研究科における教員の配置状況を教員養成機構運営会議において確認し、必要に応じて各学部、研究科に改善要請を行っている。</td> </tr> </tbody> </table>				自己点検・評価の観点		評価基準					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われているか。		教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていない。	-	A	各学部、研究科における教員の配置状況を教員養成機構運営会議において確認し、必要に応じて各学部、研究科に改善要請を行っている。		
自己点検・評価の観点		評価基準																									
		A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)																							
教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われているか。		教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていない。																							
-	A	各学部、研究科における教員の配置状況を教員養成機構運営会議において確認し、必要に応じて各学部、研究科に改善要請を行っている。																									
		学科等	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自己点検・評価の観点</th> <th colspan="3">評価基準</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>A (適切に実施している)</th> <th>B (概ね適切に実施している)</th> <th>C (改善すべき事項がある)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">学科・研究科等における教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われているか。</td> <td>教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。</td> <td>教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。</td> <td>教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていない。</td> </tr> <tr> <td>人文社会科学部</td> <td>A</td> <td colspan="3">教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。</td> <td>様式第2号 課程認定変更届</td> </tr> </tbody> </table>				自己点検・評価の観点		評価基準					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	学科・研究科等における教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われているか。		教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていない。	人文社会科学部	A	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。			様式第2号 課程認定変更届
自己点検・評価の観点		評価基準																									
		A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)																							
学科・研究科等における教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われているか。		教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われていない。																							
人文社会科学部	A	教員の配置状況(必要専任教員数など)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。			様式第2号 課程認定変更届																						

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				社会文化創造研究科	A	教員の配置状況（必要専任教員数など）について、課程認定変更届提出時を中心に、必要に応じて配置状況を確認している。	課程認定変更届	
				地域教育文化学部	A	様式2号および課程認定変更届に基づいて必要専任教員数を満たしていることを教員免許管理部会で確認している。学部執行部において、将来的な退職等の見込みに基づいて教員の採用計画を検討している。	課程認定書類様式2号・変更届	
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第十六号）及び教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を定期的に確認している。また、各分野の教員のバランス（研究者教員及び実務家教員）にも配慮しつつ、人事計画を立てて実行している。	【教育実践研究科委員会資料】人事計画（資料は事務担当所蔵）。	
				理学部	A	様式2号および課程認定変更届に基づいて必要専任教員数を満たしていることを確認し、必要があれば新たに教員を配置できるよう検討を行っている。	課程認定書類様式2号・変更届	
				理工学研究科（理学系）	A	様式2号および課程認定変更届に基づいて必要専任教員数を満たしていることを確認し、必要があれば新たに教員を配置できるよう検討を行っている。	課程認定書類様式2号・変更届	
				工学部	A	課程認定変更届に基づいて必要専任教員数を満たしていることを確認しており、将来的な退職等の見込みに基づいて教員の採用計画を検討している。	課程認定変更届	
				理工学研究科（工学系）	A	課程認定変更届に基づいて必要専任教員数を満たしていることを確認しており、将来的な退職等の見込みに基づいて教員の採用計画を検討している。	課程認定変更届	
20		教員の業績等	大学全体	自己点検・評価の観点				評価基準
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われているか。		教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われていない。
				-	A	各学部、研究科における教員の業績等を教員養成機構運営会議において確認し、必要に応じて各学部、研究科に改善要請を行っている。		

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
			学科等	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われているか。		教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教員の業績等（担当授業科目に関する研究実績及び学校現場等での実務経験）の確認（評価を含む）が行われていない。
			人文社会科学部	A	・採用時に教員の業績等を確認している。 ・各教員に対して活動の自己評価・自己点検を毎年行っている。点検項目に業績等の内容が含まれており、部局長が各教員の業績を確認できる体制になっている。また、学部執行部が必要に応じて教員から研究・教育実施上の課題等をヒアリングしている。		教員の自己評価・自己点検マニュアル 若手支援・学会発表支援の通知	
			社会文化創造研究科	A	教員採用時及び課程認定変更届提出時を中心に、必要に応じて教員の業績等を確認している。		課程認定変更届	
			地域教育文化学部	A	様式4号および教員の業績一覧に基づいて確認を行い、必要に応じて業績の充実に向けた支援を行っている。新規採用の際に、審査委員会で課程認定の観点においても業績審査を行っている		課程認定書類様式4号	
			教育実践研究科 (教職大学院)	A	採用時に授業及び研究指導担当の業績を確認している。さらに、教育研究業績の他、学校現場での指導等の業績についても確認している（自己点検評価において）。		【教育実践研究科委員会資料】（資料は事務担当所蔵）。 【自己点検評価資料】（資料は事務担当所蔵）	
			理学部	A	様式4号および教員の業績一覧に基づいて確認を行い、必要に応じて業績の充実に向けた支援を行っている。		課程認定書類様式4号	
			理工学研究科（理学系）	A	様式4号および教員の業績一覧に基づいて確認を行い、必要に応じて業績の充実に向けた支援を行っている。		課程認定書類様式4号	
			工学部	A	実務経験のある教員についてはシラバスに記載し、学生に公表している。		シラバス	
			理工学研究科（工学系）	A	実務経験のある教員についてはシラバスに記載し、学生に公表している。		シラバス	

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠			
21		職員の配置状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準				
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)		
				職員の配置状況(事務組織、必要な職員数)の確認が行われているか。	職員の配置状況(事務組織、必要な職員数)の確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	職員の配置状況(事務組織、必要な職員数)の確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	職員の配置状況(事務組織、必要な職員数)の確認が行われていない。			
-	C	全学的に教職課程を運営する事務組織はなく、小白川キャンパスにおいて担っている。全学的な職員の配置状況の確認は行っていない。								
22	FD・SDの実施状況		大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準				
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)		
				教職課程を担当する教員だけでなく、教科専門の教員も含めて、教育力の向上や資質・能力の開発を目指して、研修を行っているか。	研修を行っており、実施内容について定期的な検証・改善が行われている。	研修を行っていないが、改善に向けた検討が行われている。	研修を行っていない。			
				-	A	令和4年9月14日に全学教職員を対象としたFD研修会を開催し、本制度の趣旨・実施方法について説明後、課題確認や改善策について議論した。				
				自己点検・評価の観点		評価基準				
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)		
				教職課程を担当する教員だけでなく、教科専門の教員も含めて、教育力の向上や資質・能力の開発を目指して、研修を行っているか。	研修を行っており、実施内容について定期的な検証・改善が行われている。	研修を行っていないが、改善に向けた検討が行われている。	研修を行っていない。			
人文社会科学部	A	FD研修会「教職課程の自己点検・評価の実施方法について」で、教職課程の充実・見直しのために現状の課題確認と改善策の検討を行い、自己点検・評価の結果を教授会で共有している他、学部内でも各種FDを行なっている。		教職FD研修会案内 学部FD研修会案内						
社会文化創造研究科	A	教育力の向上を目的とする授業改善懇談会を学部主導で毎年度開催しているほか、全学実施の教職課程の自己点検に関するFD研修会に参加するなど、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の実行に向けて、教科専門の教員も含めた意見交換を行っている。		授業改善懇談会・FD研修開催要項(参考資料9)						
地域教育文化学部	A	FD研修会で教職課程の充実・見直しのために現状の課題確認と改善策の検討を行っている。また、自己点検・評価の結果を教授会で審議する際に既に改善を行っている好事例を紹介する他、全教員から充実・見直しに関わる意見を求める形で研修を行っている。		総務委員会議事録のFD実施報告 自己点検・評価に関する教授会議事録 授業担当教員へのアンケート結果						
教育実践研究科 (教職大学院)	A	全教員対象のFD研修会を開催し、教員の教育力や資質・能力の開発を組織的に行っている。実施したFD研修会の内容についてFD委員会で検証・改善を図っている。		【FD研修会】①令和3年度FD研修会の開催について(通知)、校内研修マニュアル「はじめてのロイロノート」(FD研修会配付資料)。						
理学部	A	教育力の向上や教員として望ましい資質・能力を養成することを目指してFD研修会を実施している。また、教職課程自己点検・評価の結果を教授会で審議する際には、全教員から充実・見直しに関わる意見を求める形で研修を行っている。		FD実施状況						

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				理工学研究科（理学系）	A	教育力の向上や教員として望ましい資質・能力を養成することを目指してFD研修会を実施している。また、教職課程自己点検・評価の結果を教授会で審議する際には、全教員から充実・見直しに関わる意見を求める形で研修を行っている。	FD実施状況	
				工学部	A	オンデマンドを含むFD研修会に参加し、教職課程の充実・見直しのために現状の課題確認と改善策の検討を行っている。	FD研修会資料	
				理工学研究科（工学系）	A	オンデマンドを含むFD研修会に参加し、教職課程の充実・見直しのために現状の課題確認と改善策の検討を行っている。	FD研修会資料	
23		授業評価アンケートの実施状況	授業科目	自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				授業評価アンケートが行われているか。		授業評価アンケートが行われており、定期的な検証・改善が行われている。	授業評価アンケートが行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	授業評価アンケートが行われていない。
				人文社会科学部	A	毎年度授業改善アンケートを実施している。	アンケート用紙	
				社会文化創造研究科	A	毎年度各学期で授業評価アンケートを実施し、必要に応じて授業内容等の見直しや改善を行っている。	授業評価アンケート実施要項（参考資料10）	
				地域教育文化学部	A	各学期に授業評価アンケートを実施し、結果に基づいて授業内容等の見直し、改善を行っている。	授業評価アンケート結果	
				教育実践研究科（教職大学院）	A	研究科教員が主体となり、授業評価アンケートが行なっている。また、アンケート結果を研究科委員会で共有しており、授業内容の見直しの材料とし、授業改善を図っていく仕組みができています。	【研究科委員会資料】（資料は事務担当所蔵）。	
				理学部	A	各学期に授業改善アンケートを実施し、結果に基づいて授業内容等の見直し、改善を行っている。	授業改善アンケート実施状況	
				理工学研究科（理学系）	A	各学期に授業改善アンケートを実施し、結果に基づいて授業内容等の見直し、改善を行っている。	授業改善アンケート実施状況	
				工学部	A	各学期に授業改善アンケートを実施し、結果に基づいて授業内容の見直し、改善を図っている。	授業改善アンケート結果	

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				理工学研究科（工学系）	A	各学期に授業改善アンケートを実施し、結果に基づいて授業内容の見直し、改善を図っている。	授業改善アンケート結果	
24	情報公表	学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				情報公表が適切に行われているか。		情報公表が適切に行われており、公表内容の定期的な検証・改善が行われている。	情報公表が適切に行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	情報公表が適切に行われていない。
		-	A	教育職員免許法施行規則第22条の6に示された事項について大学HPにおいて、毎年度教職課程に係る情報を公表している。情報の公表方法および内容については教員養成機構運営会議において確認し、改善を図っている。	山形大学HP 教員養成の状況に関する情報の公表 https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/training			
25		学修成果に関する情報公表の状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				卒業生（教員免許取得者）の学修成果に関する情報公表が行われているか。		卒業生（教員免許取得者）の学修成果に関する情報公表が行われており、公表内容の定期的な検証・改善が行われている。	卒業生（教員免許取得者）の学修成果に関する情報公表が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	卒業生（教員免許取得者）の学修成果に関する情報公表が行われていない。
		-	B	卒業生の学修成果に関する情報公表は行われていないが、ディプロマポリシーに基づく学修成果の可視化に向けて検討を行っている。				
26		教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				評価書の公表が行われているか。		評価書の公表が行われており、根拠となる資料やデータ等の定期的な検証・改善が行われている。	評価書の公表が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	評価書の公表が行われていない。
		-	A	令和5年5月に令和4年度分の評価書を公表した。評価方法および根拠資料やデータの収集方法等については教員養成機構運営会議において定期的に確認し、改善を図っている。				

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠		
27	教職指導 (学生の受け入れ・学生支援)	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準			
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成の目標の関係等に関する確認が行われているか。	教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成の目標の関係等に関する確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成の目標の関係等に関する確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成の目標の関係等に関する確認が行われていない。		
			-	A	各学部、研究科における教職課程に関する情報提供、学位プログラムの目標と教員養成の目標の関係等の確認に関する状況を教員養成機構運営会議において確認し、必要に応じて各学部、研究科に改善要請を行っている。				
			学科等	自己点検・評価の観点		評価基準			
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成(教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む)の目標の関係等に関する確認が行われているか。	教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成(教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む)の目標の関係等に関する確認が行われており、定期的な検証・改善が行われている。	教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成(教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む)の目標の関係等に関する確認が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	教職課程に関する情報提供の有無、学位プログラムの目標と教員の養成(教育実践研究科はスクールリーダーの育成を含む)の目標の関係等に関する確認が行われていない。		
				人文社会科学部	A	教員養成目標はID1の通り設定されており、学位プログラムとの関係も、導入・基礎・展開・完成という専門科目のレベルづけにより、様式第8号ウの学年ごとの到達目標に合致している。受験生には、学部案内や学部HP等で情報提供を行っており、在学生には、各学期前のオリエンテーションや便覧を通して情報提供を行っている。			便覧の教職副専攻ページ 学部HPのコース紹介ページ
				社会文化創造研究科	A	受験生には学部案内や学部HP等を通じて、在学生には大学院学務委員会が主導する各学期前のオリエンテーションや便覧の記載を通して、取得可能な専修教員免許の種類や単位数、手続きの情報提供を行っている。学位プログラムの目標と教員養成の目標の関係等については、3つの方針の改定時を中心に、必要に応じて確認を行っている。			学生便覧(教育職員免許状の取得)(参考資料11)
				地域教育文化学部	A	児童教育コースでは入学当初の集中講義科目「学部導入セミナー」で4年間の学習目標および卒業後のキャリア形成を考えた上で取得を希望する副免許状について検討させ、履修のための説明会を実施している。文化創生コースでは1年生後期に教職課程の授業科目の履修指導を実施している。また、就職支援専門委員会では教員採用試験を受験する3年生・4年生を対象にセミナーを実施している。就職支援専門委員会および学務委員会においてDPと教員養成の目標を踏まえながら教職課程に関する情報提供の状況および卒業生の教員就職状況について確認を行い、必要に応じて改善の検討を行っている。			各コースDP 課程認定書類様式8号イ「教職指導の状況」
教育実践研究科 (教職大学院)	A	受験生には、学部案内や学部HP等で情報提供を行っている。在学生には、前期・後期のオリエンテーション時に説明したり、便覧を通して情報提供を行っている。教員養成の目標は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ学部内の学務委員会等で確認を行っている。			【学生便覧】IV教育職員免許状(先週免許状)(pp.18~19)。 【オリエンテーション資料】4月と9月に実施、(資料は事務担当所蔵)。				

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠
				理学部	A	理学部の教育課程は、学生が自分の将来の進路を考えて選択する「スタンダード」「フロンティア」「サイエンスコミュニケーター」の3つの履修プログラムがあり、理科・数学をより横断的に学ぶとともに教職科目や学芸員科目等を履修し、専門的知識をもとに教育、科学普及、学術振興の場において社会に貢献できる能力を修得するための教育プログラムとして「サイエンスコミュニケータープログラム」が設置されている。1年前期の必修科目「理系のキャリアデザインA」では、履修プログラムを含めた理学部全体のカリキュラムの説明を行った上で、卒業までの学習計画を作成し教職課程を履修する学生の確認を行っている。また、教務委員会においてDPと教員養成の目標を踏まえながら教職課程に関する情報提供の状況および卒業生の教員就職状況について確認を行い、必要に応じて改善の検討を行っている。	DP 課程認定書類様式8号ア 履修指導状況
				理工学研究科（理学系）	A	理学部の教育課程は、学生が自分の将来の進路を考えて選択する「スタンダード」「フロンティア」「サイエンスコミュニケーター」の3つの履修プログラムがあり、理科・数学をより横断的に学ぶとともに教職科目や学芸員科目等を履修し、専門的知識をもとに教育、科学普及、学術振興の場において社会に貢献できる能力を修得するための教育プログラムとして「サイエンスコミュニケータープログラム」が設置されている。1年前期の必修科目「理系のキャリアデザインA」では、履修プログラムを含めた理学部全体のカリキュラムの説明を行った上で、卒業までの学習計画を作成し教職課程を履修する学生の確認を行っている。また、教務委員会においてDPと教員養成の目標を踏まえながら教職課程に関する情報提供の状況および卒業生の教員就職状況について確認を行い、必要に応じて改善の検討を行っている。	DP 課程認定書類様式8号ア 履修指導状況
				工学部	A	学務委員会において学位プログラムと教員養成の目標の関係について確認を行い、必要に応じて改善の検討を行っている。また、受験生には、大学HP等で取得可能な免許について情報提供を行い、在学生には、入学時のオリエンテーションや便覧を通して情報提供を行っている。	山形大学HP（URL： https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/training ） 教育実習案内 学生便覧
				理工学研究科（工学系）	A	教務委員会において学位プログラムと教員養成の目標の関係について確認を行い、必要に応じて改善の検討を行っている。また、在学生には、入学時のオリエンテーションや便覧を通して情報提供を行っている。	学生便覧
28		学生に対する履修指導の実施状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準	
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				学生に対する適切な履修指導が行われているか。	学生に対する適切な履修指導が行われており、指導内容について定期的な検証・改善が行われている。	学生に対する適切な履修指導が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	学生に対する適切な履修指導が行われていない。
				-	A	各学部、研究科における学生に対する教職課程履修指導の実施状況を教員養成機構運営会議において確認し、必要に応じて各学部、研究科に改善要請を行っている。	

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
			学科等	自己点検・評価の観点		評価基準		
						A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
						学生・院生に対する適切な履修指導（「履修カルテ」の活用を含む）が行われているか。	学生・院生に対する適切な履修指導（「履修カルテ」の活用を含む）が行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	学生・院生に対する適切な履修指導（「履修カルテ」の活用を含む）が行われていない。
				人文社会科学部	A	教職課程に関する副専攻プログラムを設け、各年度はじめに実施しているオリエンテーションにおいて、プログラムごとの面談、履修指導を行っている。またその際に履修カルテの活用についても案内している。その他、「教職論」の授業でなりたい教師像を踏まえた大学での学習目標を立てさせている。	便覧の教職副専攻ページ 学部HPのコース紹介ページ	
				社会文化創造研究科	A	在学生には大学院学務委員会が主導する各学期前のオリエンテーションや便覧の記載を通して、取得可能な専修教員免許状の種類や単位数、手続きの情報提供を行っている。	課程認定申請資料（参考資料1）	
				地域教育文化学部	A	児童教育コースでは入学当初の集中講義科目「学部導入セミナー」で4年間の学習目標および卒業後のキャリア形成を考えた上で取得を希望する副免許状について検討させ、履修のための説明会を実施している。また、「教職論」の授業でなりたい教師像を踏まえた大学での学習目標を立てさせている。毎学期のオリエンテーション時に学生に履修カルテの確認と自己評価を行うよう指導している。	課程認定書類様式8号イ「教職指導の状況」	
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	各年度はじめに実施しているオリエンテーション及び後期のオリエンテーションにおいて、履修指導を行っている。その際に、学生便覧や成績表に基づいて説明している。また、新たに免許状を取得したい場合には、科目等履修など個別指導や説明をしている。	【学生便覧】Ⅱ履修方法、1. 履修基準、(pp.3)。Ⅲカリキュラム1. 到達目標と授業科目 (pp.6-7)。 【オリエンテーション資料】4月と9月に実施、(資料は事務担当所蔵)。	
				理学部	A	1年前期の必修科目「理系のキャリアデザインA」では、履修プログラムを含めた理学部全体のカリキュラムの説明を行った上で、卒業までの学習計画を作成している。また、「教職論」の授業でなりたい教師像を踏まえた大学での学習目標を立てさせている。毎学期のオリエンテーション時に学生に履修カルテの確認と自己評価を行うよう指導している。	履修指導状況	
				理工学研究科（理学系）	A	1年前期の必修科目「理系のキャリアデザインA」では、履修プログラムを含めた理学部全体のカリキュラムの説明を行った上で、卒業までの学習計画を作成している。また、「教職論」の授業でなりたい教師像を踏まえた大学での学習目標を立てさせている。毎学期のオリエンテーション時に学生に履修カルテの確認と自己評価を行うよう指導している。	履修指導状況	
				工学部	A	各年度はじめに実施しているオリエンテーションにおいて、履修指導を行っている。なお、工業の免許取得においては、教育職員免許法施行規則第五条第1項表備考第六号に基づき、各教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等の単位を教科に関する専門的事項の修得で持って代えているため、「教職実践演習」は希望者がいた場合にのみ開講している。	学生便覧 教育実習案内	
				理工学研究科（工学系）	A	在学生には新入生オリエンテーションや便覧の記載を通して、取得可能な専修教員免許状の種類や単位数、手続きの情報提供を行っている。	学生便覧	

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
29	学生に対する進路指導の実施状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準			
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
			学生・院生に対する進路指導が適切に行われているか。		学生・院生に対する進路指導が適切に行われており、指導内容について定期的な検証・改善が行われている。	学生・院生に対する進路指導が適切に行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	学生・院生に対する進路指導が適切に行われていない。	
			-	A	毎年5~6月と8月に教員採用試験受験者を対象に面接セミナーを実施し、一次・二次試験に向けた面接対策として外部講師からの情報提供、教員による演習指導を行っている。また、実施後はアンケートも行い内容の検証・改善に務めている。			
			自己点検・評価の観点		評価基準			
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
		学生・院生に対する進路指導（キャリア支援体制の構築を含む）が適切に行われているか。		学生・院生に対する進路指導（キャリア支援体制の構築を含む）が適切に行われており、指導内容について定期的な検証・改善が行われている。	学生・院生に対する進路指導（キャリア支援体制の構築を含む）が適切に行われていないが、改善に向けた検討が行われている。	学生・院生に対する進路指導（キャリア支援体制の構築を含む）が適切に行われていない。		
		人文社会科学部	A	小白川キャンパスでは1年次10月に教職科目履修指導、1,2年次2月に教育実習の履修指導を実施するほか、教員採用試験支援のためのセミナーや講演会を行っている。人文社会科学部では1年次に2回開催する副専攻プログラム説明会において、4年間の学習目標とキャリア形成を踏まえた取得希望免許資格について検討する機会を設け、その他2回のアドバイザー懇談会時に、教職副専攻プログラム履修者との個別面談を設定し、個別のキャリア指導を行っている。			便覧副専攻該当ページ 小白川全体での資料	
		社会文化創造研究科	A	小白川キャンパスにおいては、教員を目指す学生向けにセミナーを実施するとともに、面接対策などの指導を行っている。			なし	
		地域教育文化学部	A	地域教育文化学部就職支援専門委員会においては、教員を目指す学生向けにセミナーを実施するとともに、面接、論文・作文対策などの指導を行っている。また、セミナー実施の際に学生にアンケートを取り、実施方法や内容の改善に向けた検討を行っている。			就職支援専門委員会議事録	
		教育実践研究科 (教職大学院)	A	教員志望における校種・受験自治体の個別相談、教員採用試験に向けた支援セミナーとして一次試験対策、二次試験対策として支援体制を構築し、小論文の書き方、面接、模擬授業、集団討論・集団面接指導を実施している。これまで、11回の修了生の教員としての就職率は、特別な事情を除いて毎年100%であり、平均就職率は97%である。			【研究科委員会資料】①2022年度就職支援実施計画、②2022年度教員採用試験対策指導計画、③修了者の教員等就職状況一覧（11期分）、（資料は事務担当所蔵）。	
		理学部	A	小白川キャンパスにおいては、教員を目指す学生向けにセミナーを実施するとともに、面接対策などの指導を行っている。				
理工学研究科（理学系）	A	小白川キャンパスにおいては、教員を目指す学生向けにセミナーを実施するとともに、面接対策などの指導を行っている。						

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠
				工学部	A	学内での就活セミナーの実施やキャリアカウンセラーによる個別の就活相談など、学部全体で学生に対する進路指導を行っている。	就活相談案内
				理工学研究科（工学系）	A	学内での就活セミナーの実施やキャリアカウンセラーによる個別の就活相談など、学部全体で学生に対する進路指導を行っている。	就活相談案内
30	関係機関等との連携	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準	
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
				教育委員会等との連携・交流等を図っているか。		教育委員会等との連携・交流等を図っており、教育課程の充実や学生への指導の充実に向けた定期的な検証・改善が行われている。	教育委員会等との連携・交流等を図っていない。
				-	A	各学部、研究科の教育委員会等との連携・交流の状況について教員養成機構運営会議において確認し、教育課程の充実や学生への指導の充実を活用できるよう学部、研究科間での情報共有を促している。	
			学科等	人文社会科学部	A	高校への探究学習の支援や中学校・高校への出張講義等を実施するなど、各学校と連携・協力を図っている。	出張講義等一覧
				社会文化創造研究科	A	高校への探究学習の支援や中学校・高校への出張講義等を実施するなど、各学校と連携・協力を図っている。	出張講義等一覧
				地域教育文化学部	A	「地域学校協働インターンシップ」では学生を山形県教育委員会主催の地域学校協働活動推進員研修会に参加させたり、山形県教育委員会と連携して高校生の小学校教員体験セミナーに学生をメンターとして派遣するなど、山形県教育委員会や山形市教育委員会とも連携・協力を図り、地域の教育課題の解決に向けた取り組みを行っている。また、山形市内の学校にスクールボランティアとして学生を派遣するなど、各学校とも連携・交流を図っている。	
				教育実践研究科（教職大学院）	A	教員の魅力創造プロジェクトにおいて山形県教育委員会と連携して高校生の小学校教員体験セミナーでの高校生の事前指導および小学校での指導を行っている他、総括評価科目「教職実践プレゼンテーションⅡ」発表会では専任教員と山形県教育委員会の担当者が連携して質疑応答を行っている。	
				理学部	A	高等学校への出張講義や探究型学習支援、大学訪問による模擬講義を実施している。また、東校学館高等学校や山形西高等学校と連携を図り、講義や実験指導等により交流を図っている。	

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠
				理工学研究科（理学系）	A	高等学校への出張講義や探究型学習支援、大学訪問による模擬講義を実施している。また、東校学館高等学校や山形西高等学校と連携を図り、講義や実験指導等により交流を図っている。	
				工学部	A	中学生、高校生を対象に、大学の装置を使った実験や講義を行うプログラム（ひらめき☆ときめきサイエンス）を毎年実施しており、最先端の技術や研究の楽しさを伝える活動を行っている。また、SSHの認定を受けている地元の高校と連携協定を結び、高校での講演会や先進的科学技术体験合宿プログラムの実施など、高校との交流を深めている。	
				理工学研究科（工学系）	A	中学生、高校生を対象に、大学の装置を使った実験や講義を行うプログラム（ひらめき☆ときめきサイエンス）を毎年実施しており、最先端の技術や研究の楽しさを伝える活動を行っている。また、SSHの認定を受けている地元の高校と連携協定を結び、高校での講演会や先進的科学技术体験合宿プログラムの実施など、高校との交流を深めている。	
31	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)
			教育実習等を実施する学校等との連携・協力等を図っているか。	教育実習等を実施する学校等との連携・協力等を図っており、学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できるよう定期的な検証・改善が行われている。	教育実習等を実施する学校等との連携・協力等を図っていないが、改善に向けた検討が行われている。	教育実習等を実施する学校等との連携・協力等を図っていない。	
			-	B	各学部の実習校との連携・協力体制について教員養成機構運営会議において確認を行っている。一部、実習校との連携・協力体制の整備が遅れている学部があり、教員養成機構運営会議から改善を求めているが、概ね、各学部において実習校との連携・協力体制が整っている。		
		学科等	人文社会科学部	A	附属学校教育実習委員会において附属学校（園）及び各教育委員会、各実習校と連携・協力を図りながら教育実習を実施している。毎年、教育実習前には打ち合わせ会、教育実習後には協議会を実施し、教育実習の指導体制や大学での事前事後指導の在り方を含めて実習校と協議することで指導方法等の改善に努めている。		
			社会文化創造研究科	非該当			
			地域教育文化学部	A	附属学校教育実習委員会において附属学校（園）及び各教育委員会、各実習校と連携・協力を図りながら教育実習を実施している。毎年、教育実習前には打ち合わせ会、教育実習後には協議会を実施し、教育実習の指導体制や大学での事前事後指導の在り方を含めて実習校と協議することで指導方法等の改善に努めている。		
教育実践研究科（教職大学院）	A		教育実践研究科教育実習委員会において各実習校の担当者を招いて教育実習運営協議会を実施し、教育実習の指導体制や大学での事前事後指導の在り方を含めて実習校と協議することで指導方法等の改善に努めている。				
	理学部	A	附属学校教育実習委員会において附属学校（園）及び各教育委員会、各実習校と連携・協力を図りながら教育実習を実施している。毎年、教育実習前には打ち合わせ会、教育実習後には協議会を実施し、教育実習の指導体制や大学での事前事後指導の在り方を含めて実習校と協議することで指導方法等の改善に努めている。				

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠	
				理工学研究科（理学系）	非該当			
				工学部	A	高校教員経験者に事前指導を担当いただき、実習校と大学の連携も十分である。実習校からの最終評価も毎年概ね良好である。	教育実習スケジュール	
				理工学研究科（工学系）	非該当	（大学院においては教育実習の開講なし）		
32		学外の多様な人材の活用状況	大学全体	自己点検・評価の観点		評価基準		
					A (適切に実施している)	B (概ね適切に実施している)	C (改善すべき事項がある)	
				学外の諸機関等との連携等（人材の活用を含む）を活用しているか。	学外の諸機関等との連携等（人材の活用を含む）を活用しており、多様な人材の活用や指導内容について定期的な検証・改善が行われている。	学外の諸機関等との連携等（人材の活用を含む）を活用していないが、改善に向けた検討が行われている。	学外の諸機関等との連携等（人材の活用を含む）を活用していない。	
			-	A	各学部、研究科の学外人材の活用状況について教員養成機構運営会議において確認し、教育課程の充実や学生への指導の充実に活用できるよう学部、研究科間での情報共有を促している。			
		学科等	人文社会科学部	A	介護等体験の事前指導の際には、附属特別支援学校と社会福祉施設から、教育実習の事前指導の際には、附属学校（園）からそれぞれゲストスピーカーを招いて実施している他、近隣の小中学校長の退職者を教員採用試験対策講座の講師として招いている。			
	社会文化創造研究科		非該当					
	地域教育文化学部		A	介護等体験の事前指導の際には、附属特別支援学校と社会福祉施設から、教育実習の事前指導の際には、附属学校（園）からそれぞれゲストスピーカーを招いて実施している他、近隣の小中学校長の退職者を教員採用試験対策講座の講師として招いている。教職科目の授業では、近隣の小中学校教員や附属学校教員を实地指導講師として招き、学校現場における教師の見方考え方を学生に伝える機会を設けている。また、「地域学校協働インターンシップ」では近隣の地域学校協働活動推進員をゲストスピーカーとして招いている。				

令和4年度 教職課程 自己点検評価報告

令和5年4月 山形大学

ID	大項目	中項目	区分	部局	評価	理由	根拠
				教育実践研究科 (教職大学院)	A	総括評価科目「教職実践プレゼンテーションI,II」発表会に山形県教育委員会の担当者 را 招き、専任教員と連携して質疑応答を行っている。	
				理学部	A	介護等体験の事前指導の際には、附属特別支援学校と社会福祉施設から、教育実習の事前指導の際には、附属学校(園)からそれぞれゲストスピーカーを招いて実施している他、近隣の小中学校校長の退職者を教員採用試験対策講座の講師として招いている。	
				理工学研究科(理学系)	非該当		
				工学部	A	教育実習事前指導や職業指導の授業においては、教員経験のある非常勤講師に担当いただき、現場の経験を生かした充実した授業を行っている。	教育実践実習シラバス 職業指導シラバス
				理工学研究科(工学系)	非該当	(大学院においては、教職専門科目の開講なし)	